

2025年第2回札幌競馬特別レース名解説

＜第1日＞

○クローバー賞

クローバー（Clover）は、ヨーロッパ原産のマメ科の一年草または多年草の総称。四つ葉のものは幸福のシンボルとされ、五つ葉は金銭の幸福を、六つ葉は地位・名声を手に入れる幸福を、七つ葉は無限の幸福を意味するといわれる。四つ葉の花言葉は「幸福」「私のものになって」。

○ニセコ特別

ニセコは、北海道西部の地名。ニセコアンヌプリの南、羊蹄山の西側の地域を指す。世界でも有数のスキーリゾート地で、海外からも多くの観光客が訪れる。

＜第2日＞

○ルスツ特別

ルスツ（留寿都）は、北海道南西部の村。名は、アイヌ語の「ル・スツ（道が山のふもとにある）」に由来する。遊園地・ゴルフ場・スキー場などを備えたルスツリゾートが有名。

○サマースプリントシリーズキーンランドカップ（GⅢ）

全6戦で実施されるサマースプリントシリーズの第5戦。

本競走は、1996年にオープン特別競走として創設され、競走条件や距離の変更を経て、2006年にGⅢとして格付けされた。なお、第1着馬には同年の『スプリンターズステークス』への優先出走権が与えられる。

キーンランド競馬場は、アメリカ合衆国ケンタッキー州レキシントンにある競馬場で、周辺は馬産地として世界的に有名。同競馬場では競馬開催のほか、年数回サラブレッドのセリ市も行われている。

＜第3日＞

○すずらん賞

すずらんは、キジカクシ科の多年草。中部地方以北の本州や北海道に自生し、札幌市の花にも選ばれている。初夏に花茎を伸ばし、白い釣鐘形の小花を総状につける。花言葉は「純粋」「幸運が戻ってくる」。

○千歳特別

千歳（ちとせ）は、北海道の中南部、石狩平野南端の市。市の中央部には新千歳空港が、西部には支笏洞爺国立公園がある。

なお、同地にはJRAの勝馬投票券の発売・払戻を実施する地方競馬施設であるJ-PLACE千歳がある。

○札幌日刊スポーツ杯

日刊スポーツは、日刊スポーツ新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同紙の北海道版を発行している、日刊スポーツ新聞北海道本社より寄贈賞を受けて実施されている。

＜第4日＞

○北辰特別

北辰（ほくしん）は、北極星の別名。北辰旗と呼ばれた北海道開拓使の旗には、北極星をイメージした赤い星が描かれており、札幌市時計台や北海道庁赤レンガ庁舎（旧本庁舎）でもみられる。

○HBC賞

HBCは、札幌市に本社を置く北海道放送の略称。ラジオはJRN（TBSラジオ）系列で1952年開局、テレビはJNN（TBS）系列で1957年開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○日高育成牧場開設60周年記念 日高ステークス

本競走は、日高育成牧場開設60周年を記念して実施される。

日高（ひだか）は、北海道の旧国名のひとつで、現在の日高振興局管内に相当する。国内有数の軽種馬生産地として世界的にも知られている。管内の浦河町には、JRAの競走馬育成調教施設である日高育成牧場があり、同牧場では育成調教技術の普及に努めている。育成された競走馬は主にJRAブリーズアップセールで売却され、JRA育成馬としてデビューする。

＜第5日＞

○富良野特別

富良野（ふらの）は、北海道中央部の市。観光産業が盛んで、特にラベンダーが有名。夏には、見渡す限り一面のラベンダー畑を楽しむことができる。

○札幌スポニチ賞

スポニチは、スポーツニッポン新聞社が発行するスポーツ紙であるスポーツニッポンの略称。本競走は、札幌市に所在するスポーツニッポン北海道支局より、寄贈賞を受けて実施されている。

○農林水産省賞典札幌2歳ステークス（GⅢ）

本競走は、1966年に『北海道3歳ステークス』の名称で創設された重賞競走。1983年に『札幌3歳ステークス』に改称したのち、2001年の馬齢表記の国際基準化に伴い、現在の名称に改められた。当初は、ダート1200mの競走として実施されていたが、芝コースの新設により芝1200mに変更し、1997年には距離が1800mに延伸され、現在に至る。

＜第6日＞

○旭川特別

旭川（あさひかわ）は、北海道中央部の市。北海道最大の盆地である上川盆地に位置しており、歴史や自然が豊かな風景を選りすぐった旭川八景や旭山動物園など多くの観光スポットがある。また、若鶏の半身を豪快に素焼きにした新子焼きや旭川ラーメンが有名。

なお、同地にはJRAの勝馬投票券の発売・払戻を実施する地方競馬施設であるJ-PLACE旭川がある。

○HTB賞

HTBは、札幌市に本社を置く北海道テレビ放送の略称。1968年開局で、ANN（テレビ朝日）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○丹頂ステークス

丹頂（タンチョウ）は、北海道の道鳥に指定されているツル目ツル科の鳥。「丹」は赤色を意味し、頭頂部が赤いことから丹頂と呼ばれている。一時は絶滅したとも思われたが、1924年に釧路湿原で十数羽生存しているのが発見され、その後、国や自治体による保護活動が行われた結果、現在では約1,300羽の生息が確認されている。